

キウイフルーツの雄花採取における負担軽減のための整枝法の検討

1. はじめに

愛媛県では、キウイフルーツの安定生産の要である花粉の県内自給率を高めるため、花粉専用農園の整備を進めている。キウイフルーツの雄樹は通常棚栽培であるため、花の採取は腕を上げたまま上向きの姿勢が続き、首や肩への負担が非常に大きい。また、棚の高さに身長が合わないと、踏み台を使ったり、腰をおとしたりする必要があり、負担が増す。そこで、雄花採取の負担軽減のため、Tバー整枝法、V字整枝法の花粉採取量及び作業性について検討した。

2. 試験方法

チーフタンを供試品種とし、雨よけ栽培園で試験した。Tバー区は主枝の高さを1.8m、V字区は0.5mとし、樹幅は両区とも1.3mとした。

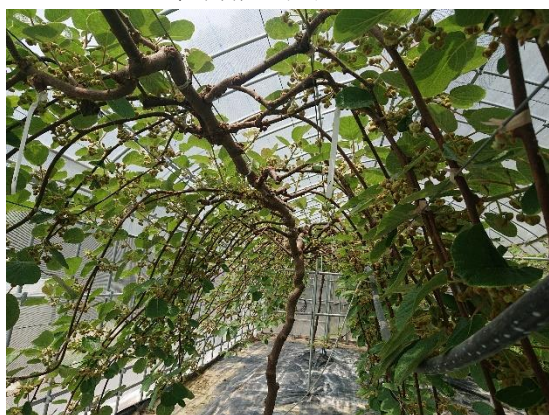


写真1 Tバー整枝法（下向きに誘引）



写真2 V字整枝法（斜め上に誘引）

3. 結果

1m²当たり花粉採取量は、Tバー区が最も多く、次いで、平棚区、V字区の順であった。1,000花蕾当たり採取時間は平棚区が最も短

くなった（表1）。

花蕾の高さ別分布は、作業姿勢が最も楽な100～150cmの高さにTバー区は46%、V字区は42%分布していた（表2）。

表1 花蕾数、花粉採取量、採取時間

試験区	花蕾数		花粉採取量 (g/m ²)	1,000花蕾 採取時間 (分：秒)
	(個/樹)	(個/m ²)		
Tバー区	9,859	932	7.0	31：13
V字区	6,754	632	4.8	33：42
平棚区	8,524	590	5.5	28：13

※1m²当たり花粉採取量は、Tバー区、V字区ともに両側に50cmの通路があると仮定し算出

表2 花蕾の高さ別分布割合（単位：%）

	0～	50～	100～	150cm
	50cm	100cm	150cm	～
Tバー区	0	28	46	26
V字区	0	26	42	32
平棚区	0	0	0	100

4. まとめ

Tバー整枝法は、下向きに枝を誘引することで、樹勢が落ち着き、新梢の発生が多く、花蕾数も多くなった。平棚に比べ採取時間がわずかに長くなるものの、低い位置の花は枝を持ち上げて採取することができ、体への負担が最も少なかった。

一方、V字整枝法は、先端から強い新梢が発生し、低い位置の新梢発生が少なかったため、花蕾も少なくなった。



写真3 Tバー整枝法（枝を持ち上げ採取可能）

（栽培開発室 主任研究員 岡田雅道）